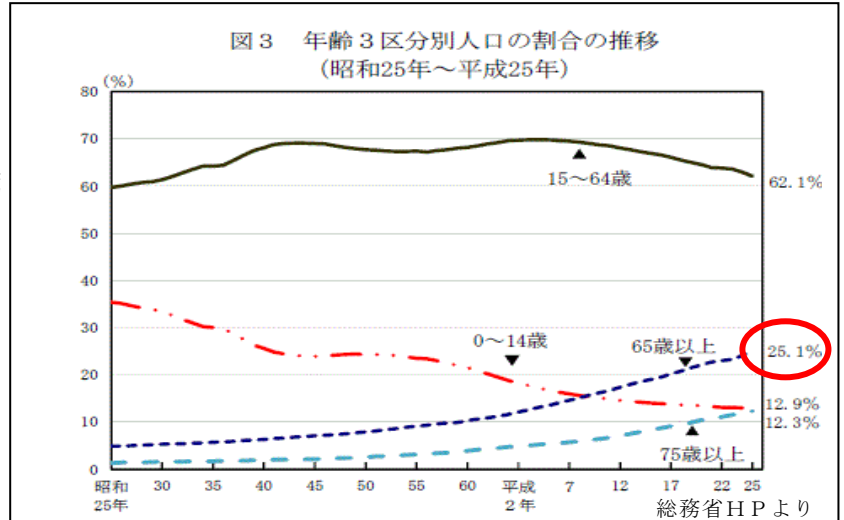




## 人口減少と少子高齢化

4月に総務省が発表した人口推計では、日本の65歳以上の高齢者の人口（老年人口）の割合が25.1%となっており、急速に高齢化が進み、「超高齢社会」（老年人口21%以上）に突入していることが分かります。



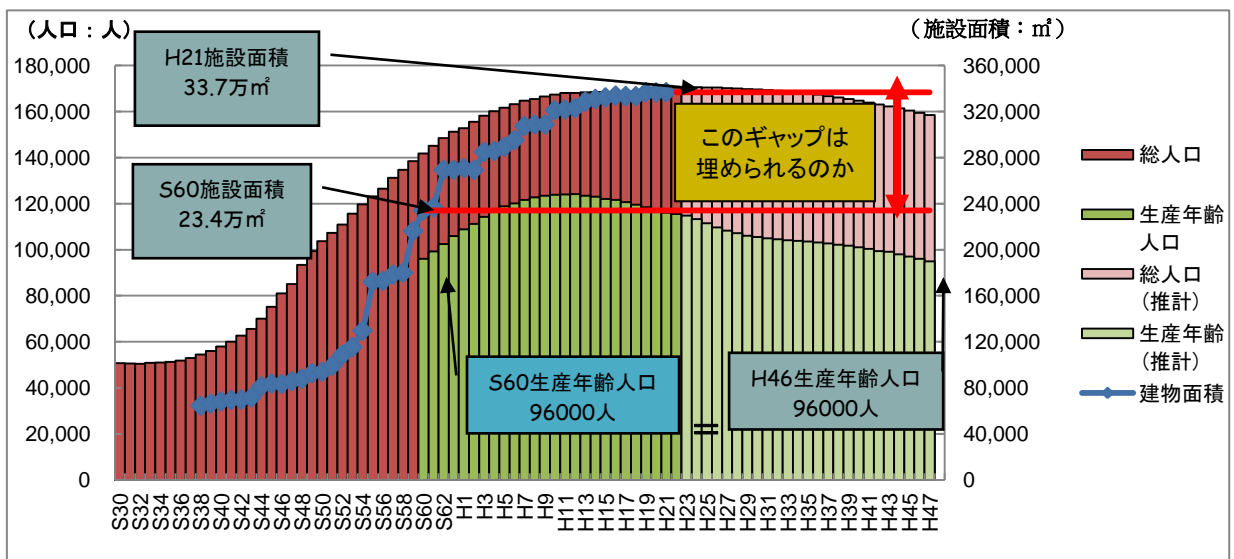
この少子高齢化は、人口減少を伴って今後もさらに進み、今から20年後、平成46年の秦野市の人口の推計値では、人口約160,000人、年少人口9.4%、生産年齢人口60.0%、老年人口30.6%となっています。

	総人口	年少人口	生産年齢人口	老年人口
S60 (1985)	142,000人	37,000人 (26.1%)	96,000人 (67.6%)	9,000人 (6.3%)
H21 (2009)	170,000人	22,000人 (12.9%)	116,000人 (68.3%)	32,000人 (18.8%)
H46 (2034)	↓ 160,000人	↓ 15,000人 (9.4%)	↓ 96,000人 (60.0%)	↑ 49,000人 (30.6%)

H46と生産年齢人口の数は同じでも、年齢構成が全く違う。

生産年齢2人で1人の高齢者を支える社会に。

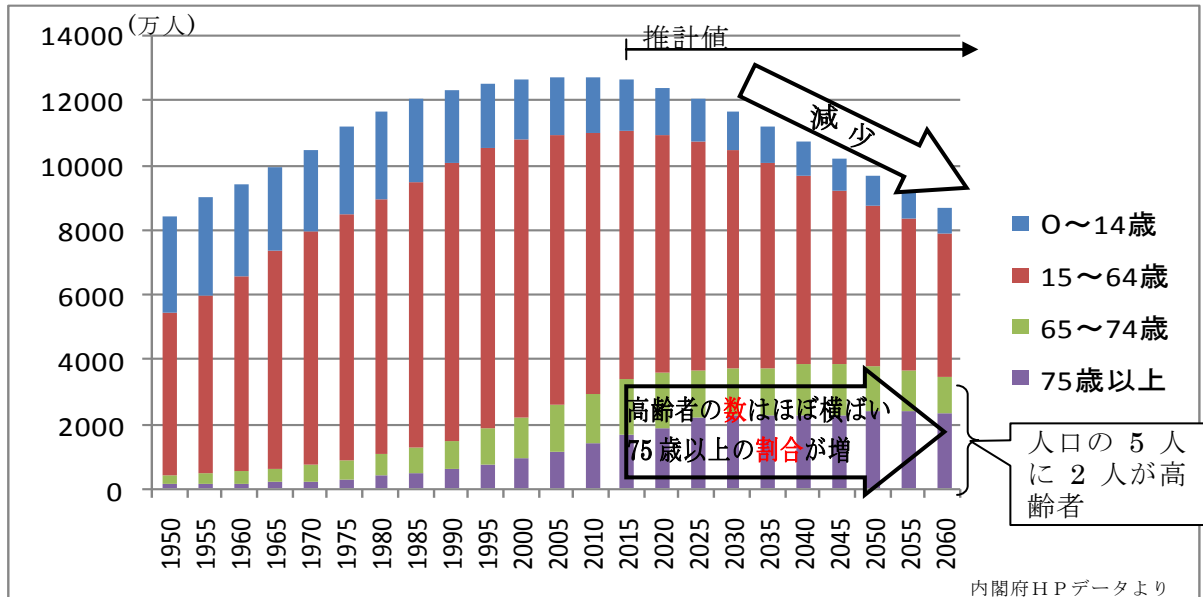
生産年齢人口が同じ昭和60年と平成46年。しかしながら、ハコモノの延床面積は大きく違います。



さらに、人口減少・少子高齢化の波は、その後も進んでいきます。

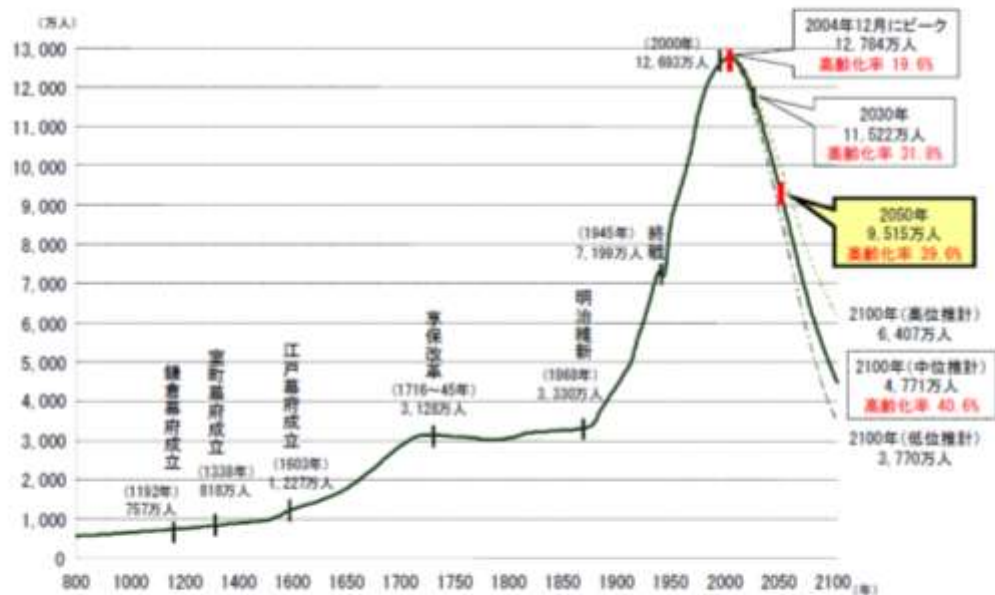
国の推計では、平成 72 (2060) 年には、日本の総人口は 8,674 万人となり、年少人口 9.1%、生産年齢人口 51.0%、老年人口 39.9%、生産年齢 1.3 人で 1 人の高齢者を支えることとなるとされ、長期的には、今後 100 年間で 100 年前の人口水準に戻ると言われています。

秦野市は、「消滅可能性自治体」には入っていませんが、日本全体が「縮む」中、さらに厳しい財政状況となることが予測されます。



【図 I-1】我が国の人口は長期的には急減する局面に

○日本の総人口は、2004年にピークに、今後100年間で100年前(明治時代後半)の水準に戻っていく。この変化は千年単位でもみても類を見ない、極めて急激な減少。



(出典)総務省「国勢調査報告」、同「人口推計年報」、同「平成12年及び17年国勢調査結果による補間推計人口」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成19年12月推計)」、国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析」(1974年)をもとに、国土交通省国土計画局作成

「国土の長期展望」中間とりまとめ概要より

